

Ⅱー人口に関する分析

1 人口動向の分析

① 総人口の推移と将来推計

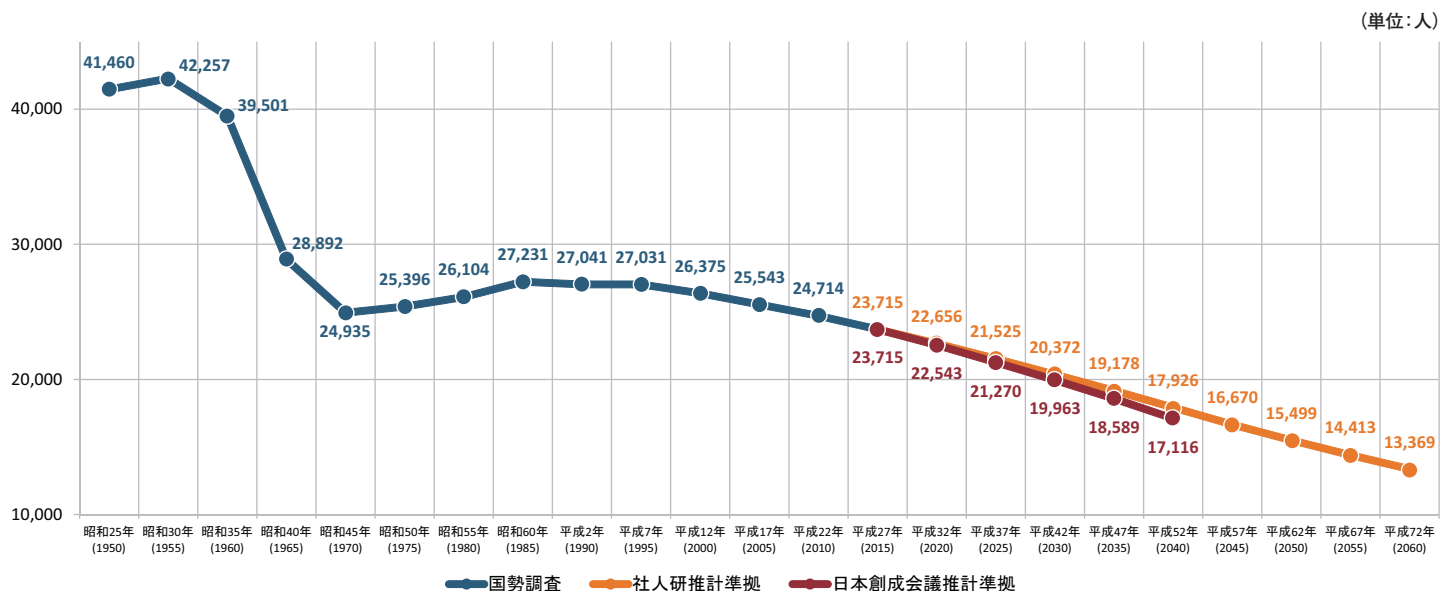
福 智町の総人口は、炭鉱最盛期であった昭和30年(1955)に、最も多い人口である42,257人を記録した。しかし、石炭から石油へのエネルギー革命により、基幹産業であった炭鉱の鉱山が相次いで閉山。これらの影響を受け労働人口が流出し、10年後の昭和40年(1965)には28,892人と激減した。▶その後、昭和45年(1970)から平成2年(1990)までは微増に転じたが、平成7年(1995)以降は、再度減少に転じ、平成22年(2010)の国勢調査では24,714人と炭鉱最盛期の半数程度の人口となった。その間、新たな基幹産業となり得る企業の誘致や新産業の創業を果たせないまま、今日に至っている。特に、完全失業率の高さは深刻な課題である。▶この厳しい状況から脱却するには、産業や雇用の創出が必要となる。しかし、大規模企業を誘致できる広大な土地などの基盤整備が困難な状況であり、加えて、財政状況が硬直し、有効な定住促進施策

を整備できない状況が続いている。さらに、定住のための主要な条件の一つである教育環境の充実においても、依然として全国平均以下の学力水準のまま推移している。したがって、通勤圏の拡大や就業・定住のサポート、学力向上をはじめとした教育環境の充実等の支援制度の整備が必要となっている。

▶また、社人研が推計した本町の人口推移は、今後とも減少傾向が続き、平成47年(2035)には19,178人と2万人を下回り、平成52年(2040)には17,928人、平成62年(2050)には15,499人、平成72年(2060)には13,369人と予想されている。これは昭和30年の最盛期の約3分の1の人口にあたる。

▶さらに、日本創成会議による推計では、より厳しい予想がなされ、平成52年(2040)には17,116人に減少し、加えて20～39歳の女性の人口が5割以上減少する、いわゆる「消滅可能性自治体」とされている。

図1 福智町の人口推移と将来人口の予想【昭和25年(1950)～平成72年(2060)】



資料: 平成22年(2010)までは国勢調査
平成27年(2015)以降は社人研人口推計値

② 年齢3区分別人口の推移と将来推計

年

年齢区別に人口推移を見ると、年少人口・生産年齢人口ともに、昭和60年(1985)から減少を続け、平成7年(1995)には、老年人口が年少人口を逆転し、さらに、平成22年(2010)にはその数が2倍となっている。

▶ 将来推計では、年少人口が平成22年から30年間

で1,000人以上減少する見通しである。生産年齢人口は年平均で約200人ずつ減少。少子高齢化が進むことで、現役世代の負担がさらに増加する。

▶ 加えて、平成32年(2020)をピークに老年人口も縮小に向かい、福智町の人口減少は加速度的に進んでいく。

図2 福智町の年齢区分別人口推計【昭和60年(1985)～平成52年(2040)】

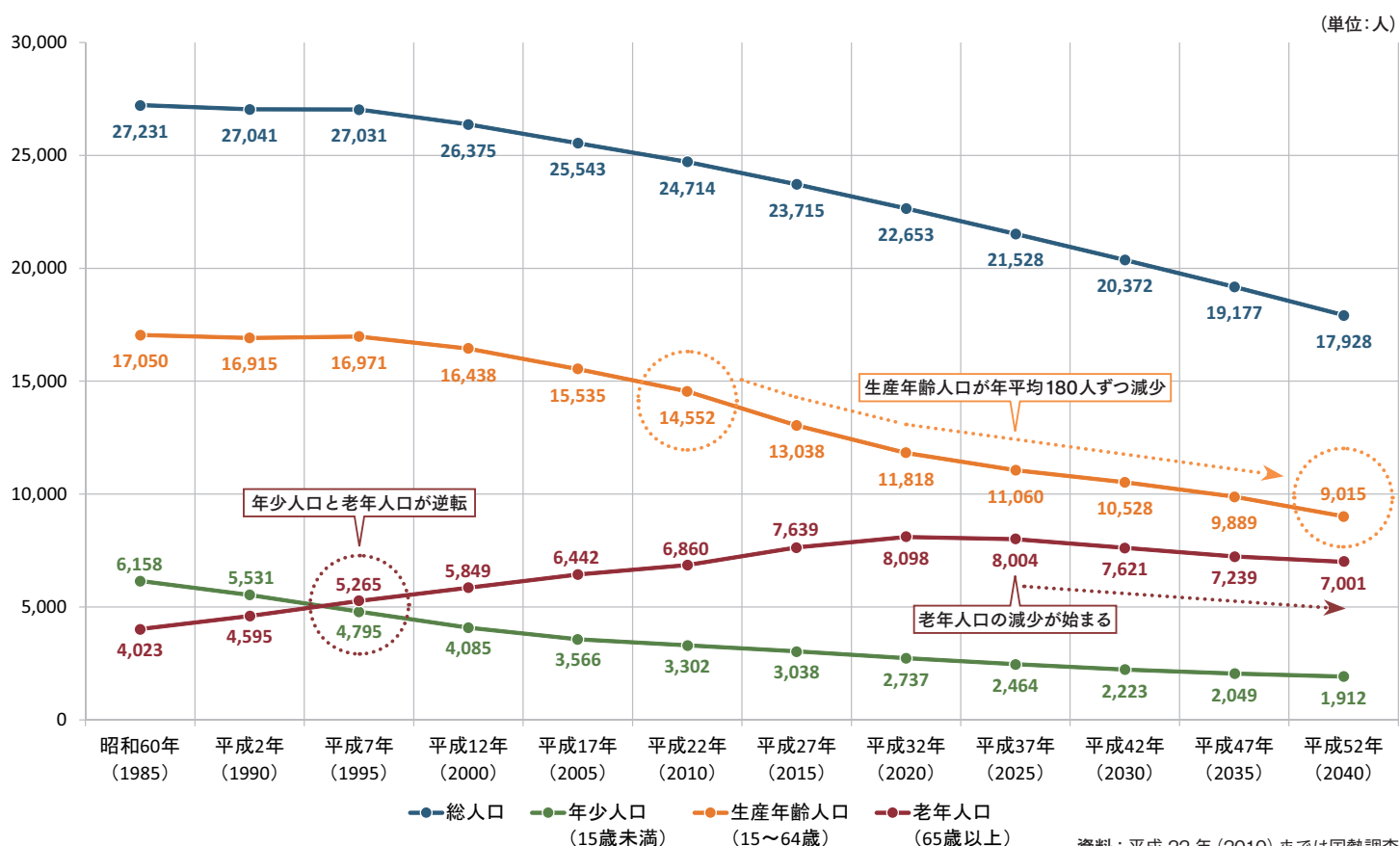
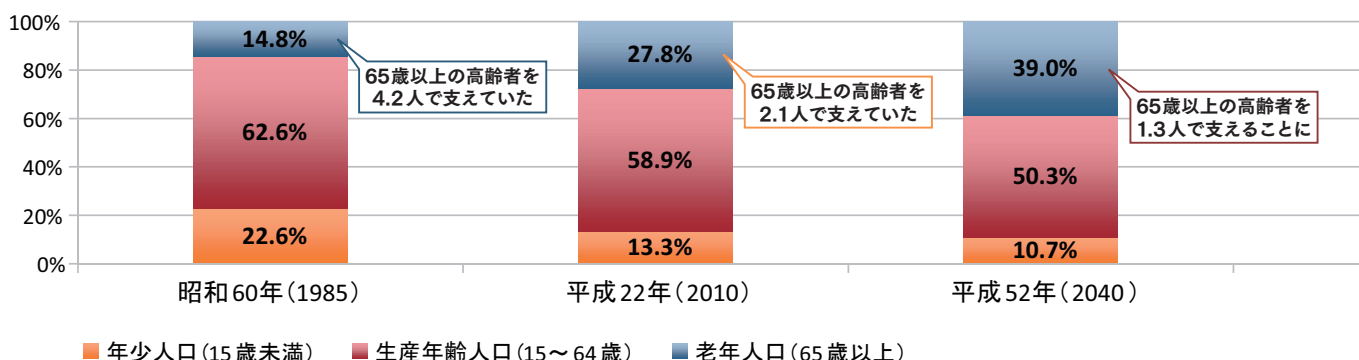


図3 年齢区分別構成割合【昭和60年(1985)～平成52年(2040)】



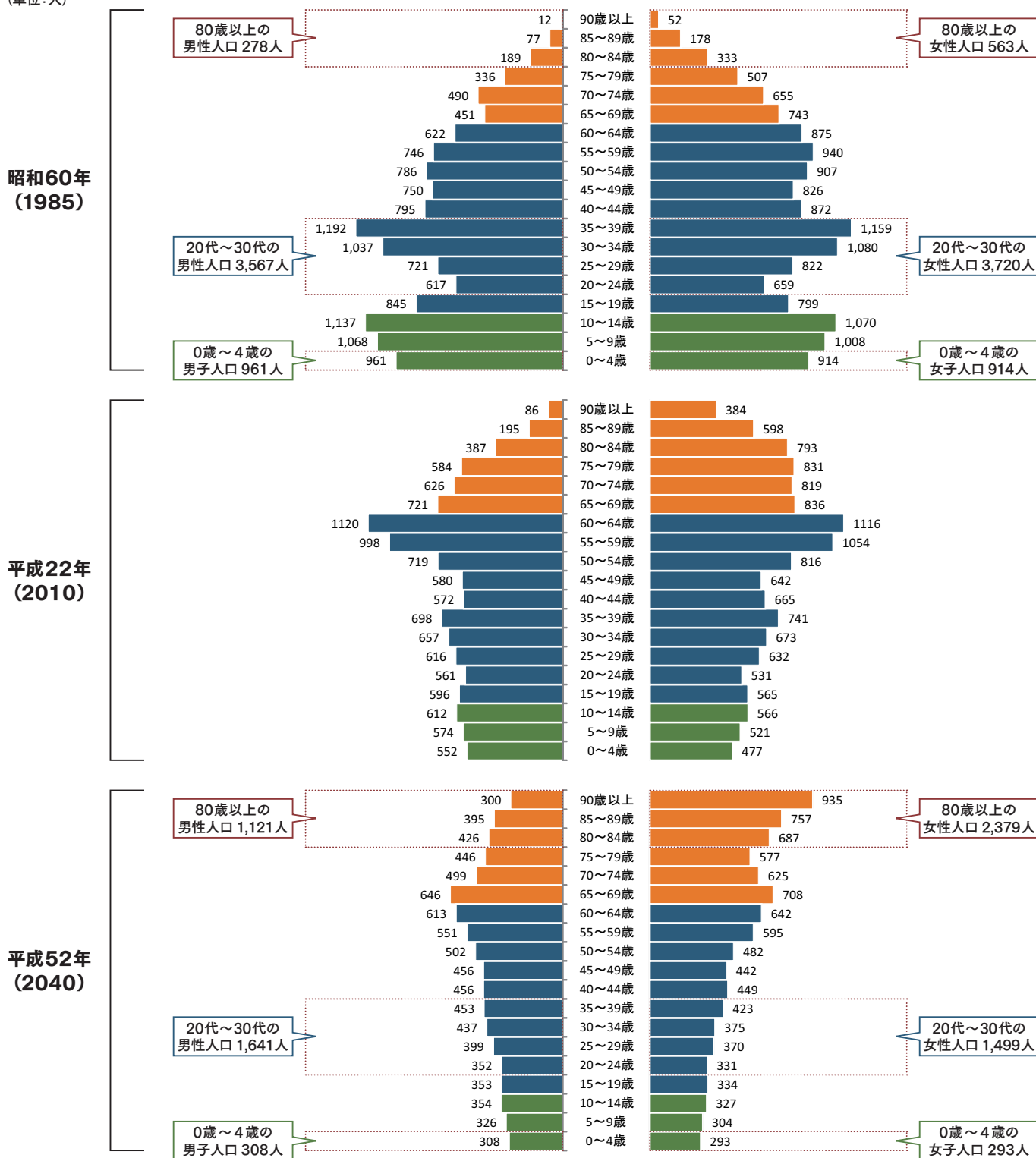
③ 人口ピラミッドの推移

人口ピラミッドの推移を見ると、昭和60年(1985)には、年少人口が老年人口よりも多い「ピラミッド型」を形成しているが、平成52年

(2040)になると「逆ピラミッド型」に近い形状になることが予測され、特に女性の老年人口の割合が非常に高くなることが推定されている。

図4 福智町の人口ピラミッド推移【昭和55年(1980)、平成22年(2010)、平成52年(2040)】

(単位:人)



Ⅱ－人口に関する分析

2 人口の社会増減の分析

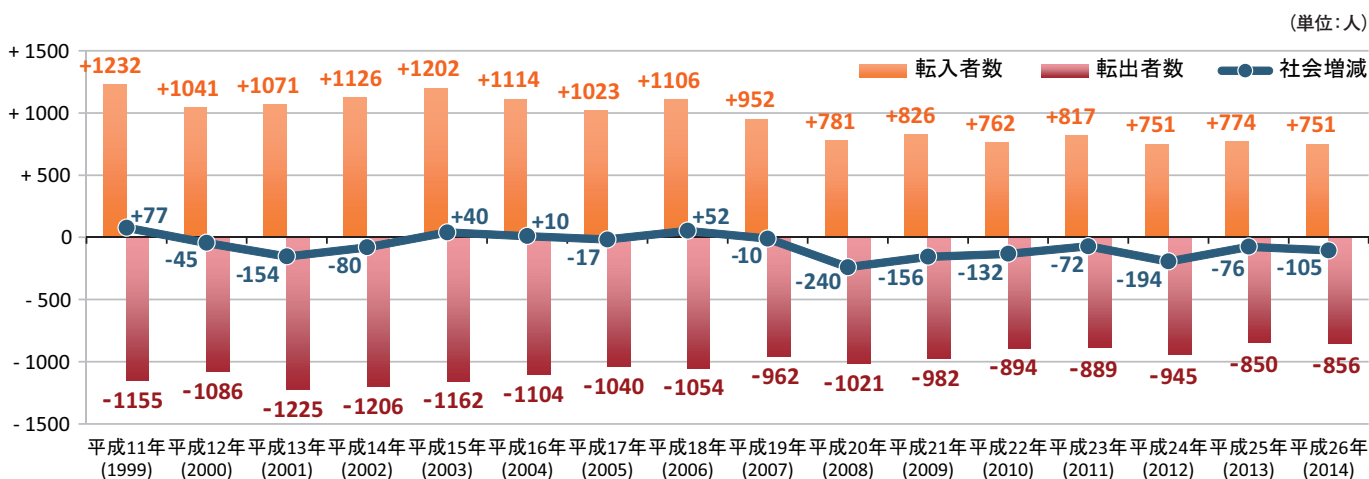
① 転入者数・転出者数（社会増減）の概要

本

町への転入者数は、直近10年間の年間平均では約870人で推移。一方、転出者数の年間平均は約970人で推移している。この結果、ここ10年間の人口の社会増減は、約1,000人の減少と

なっている。本町の人口減少に歯止めをかけるためには、移住人口の増加を図りながらも、まずは人口の流出による転出超過を重点的に抑制していく必要がある。

図5 福智町の転入者数・転出者数（社会増減）の推移【平成11年（1999）～平成26年（2014）】



資料:「ふくおかデータウェブ」平成10年(1998)10月～平成26年(2014)9月までの確定値

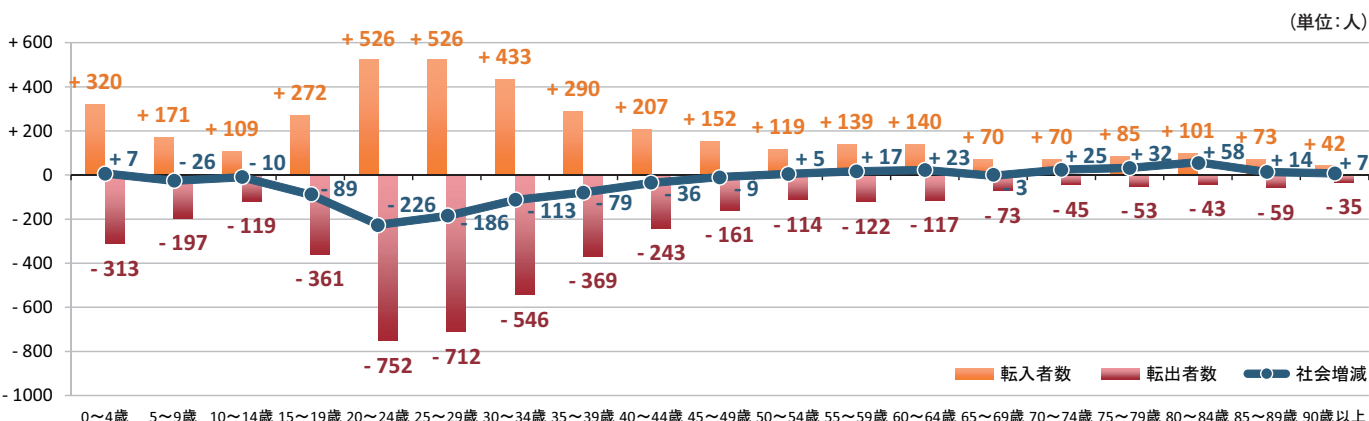
② 年齢階級別人口の動向

本

町の平成22年(2010)から5年間の年齢階級別人口動向を見てみると、10代～30代の「若年層・子育て層」で減少する傾向が見られ、特に20代の人口減少が顕著となっている。これは進学・

就職等による町外への転出が原因と考えられ、大学や雇用の受け皿が町内及び周辺地域に不足していることに起因している。そのため「若年層・子育て層」の就業・定住支援を推進する必要がある。

図6 福智町の性別・年齢別人口移動の状況【平成22年(2010)～平成26年(2014)】



③ 福岡県内の転入元・転出先の分析

福

智町の人口の動向は、転入転出ともに、8割が県内の移住である。その内、人口の流出先は、筑豊圏内が全体の7割を占め、特に田川市、飯塚市への転出が顕著となっている。

▶ 筑豊圏外では、福岡市と北九州市の両都市への人口流出が全体の2割以上を占めている。これらのことから、通勤圏を拡大する施策が人口流出を防ぐうえで有効であると考えられる。

図7 福智町における福岡県内・福岡県外・国外別人口動向の概況【平成22年(2010)～平成26年(2014)】

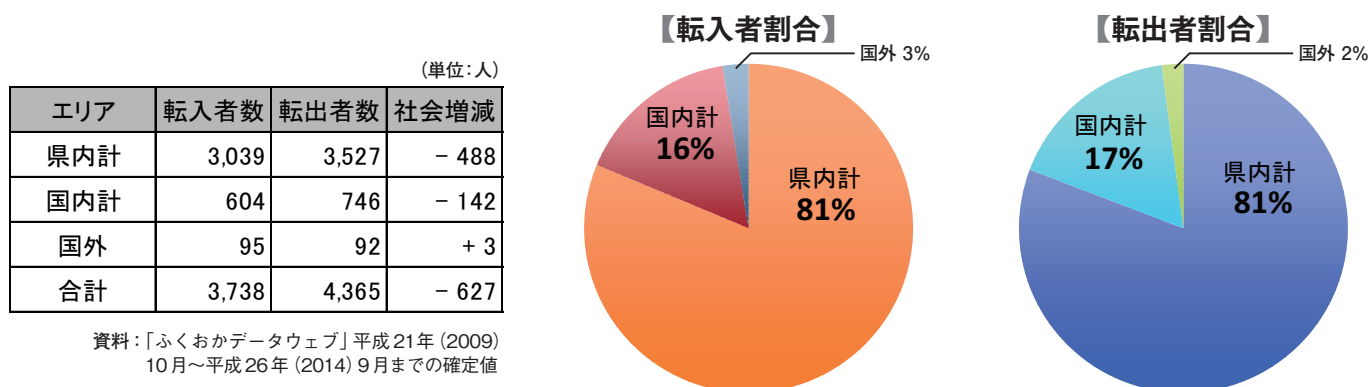


図8 福智町における福岡県内の地域別人口動向の概況【平成22年(2010)～平成26年(2014)】

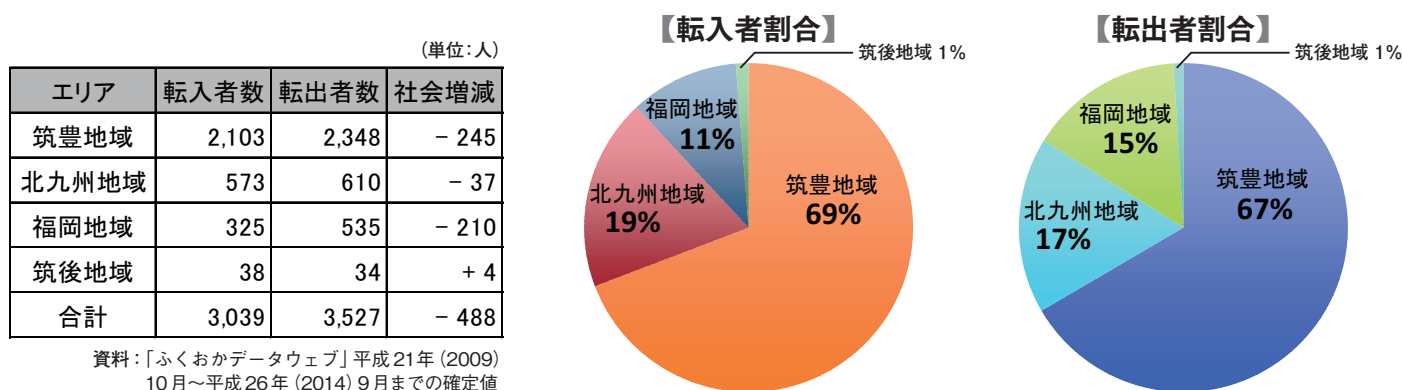
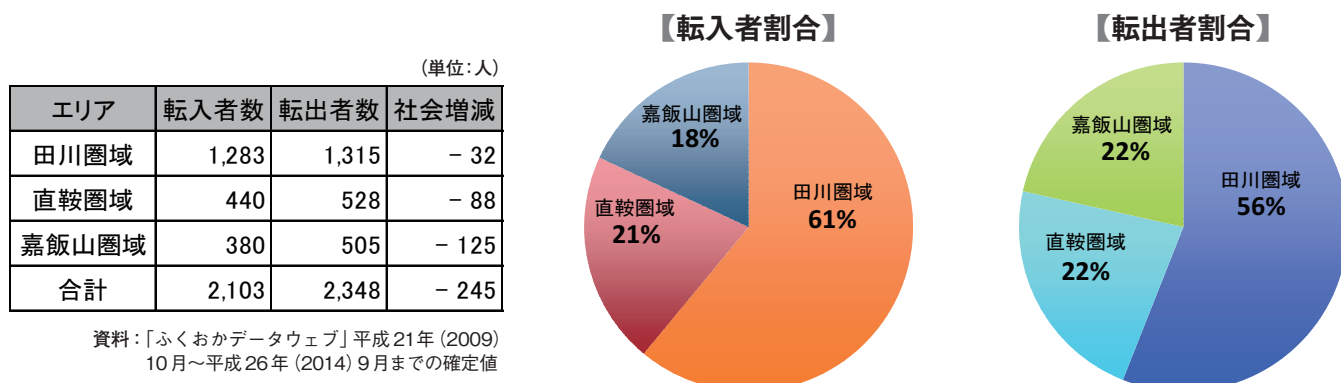


図9 福智町における筑豊圏内の地域別人口動向の概況【平成22年(2010)～平成26年(2014)】



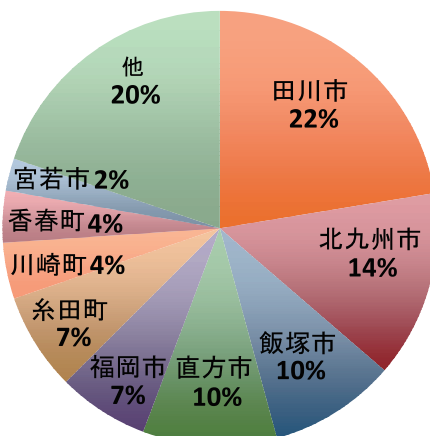
Ⅱ 人口に関する分析 Ⅱ 人口の社会増減の分析

図10 福智町における県内市町村別人口動向の概況【平成22年(2010)～平成26年(2014)】

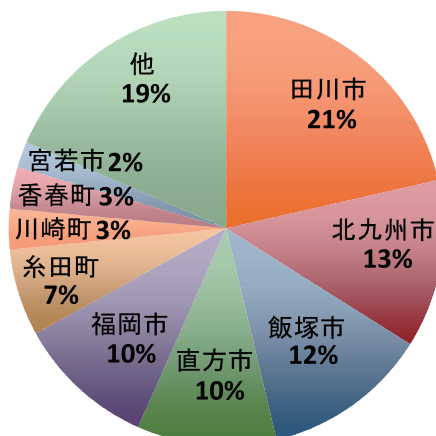
(単位:人)

市町村	転入	転出	増減
田川市	681	756	-75
北九州市	423	441	-18
飯塚市	287	435	-148
直方市	303	366	-63
福岡市	206	364	-158
糸田町	220	228	-8
川崎町	127	106	+21
香春町	117	110	+7
宮若市	73	68	+5
他	602	653	-51
合計	3,039	3,527	-488

【福岡県内市町村別転入者割合】

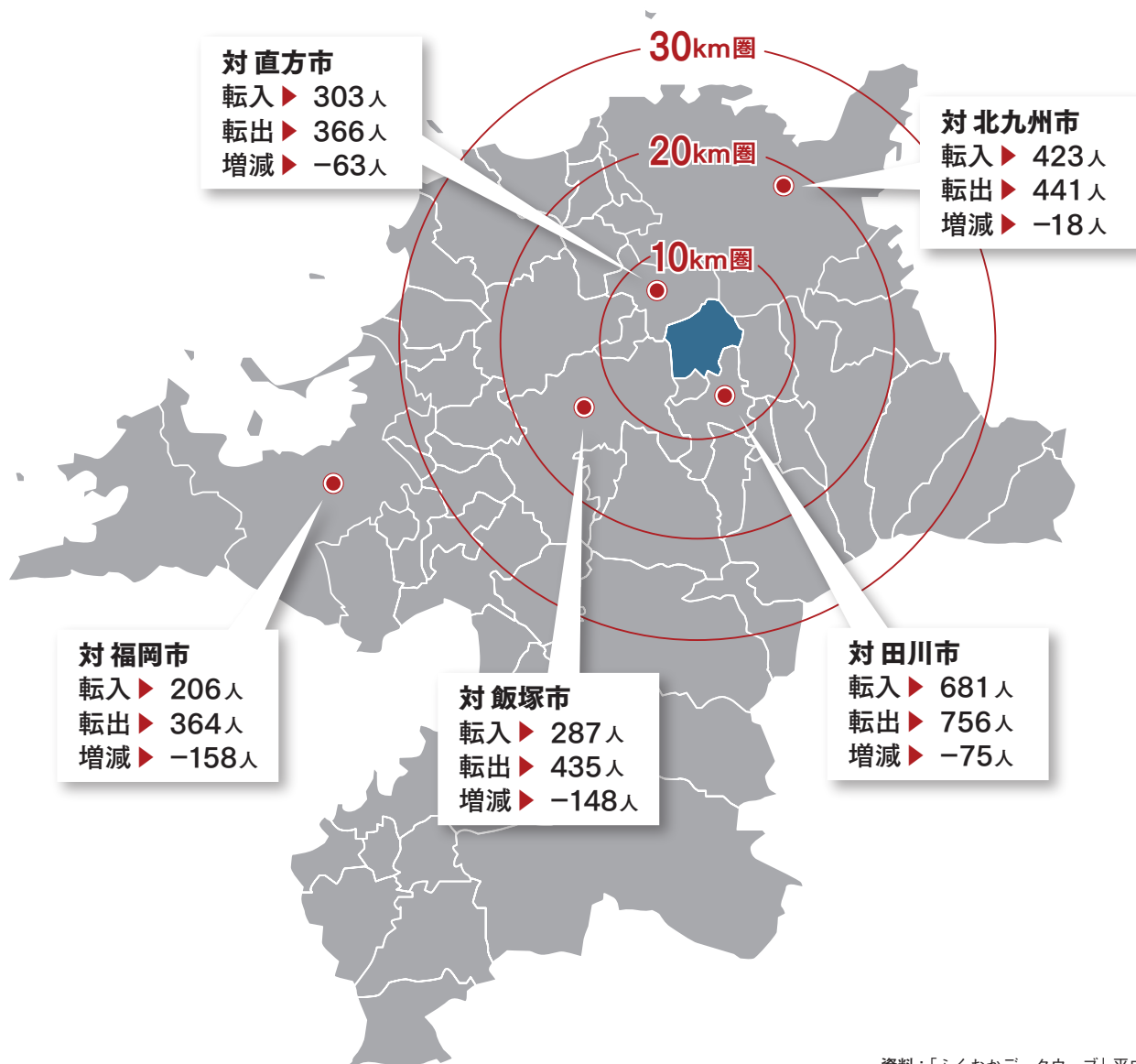


【福岡県内市町村別転出者割合】



資料:「ふくおかデータウェブ」平成21年(2009)10月～平成26年(2014)9月までの確定値

図11 福智町における人口動向トップ5自治体の相関マップ【平成22年(2010)～平成26年(2014)】



資料:「ふくおかデータウェブ」平成21年(2009)10月～平成26年(2014)9月までの確定値

④ 福岡県外の転入元・転出先の分析

町 内全体の動向でみると、転入転出ともに2割が福岡県外であり、大都市圏、近隣県が目立っている。

▶ 地方創生の主要コンセプトである「東京（首都圏）から地方へ」の人の流れをつくるためには「福岡県

への移住」の広域連携を目指す一方、地域ブランド化の推進が必要であり、住民を巻き込んだUターン施策の実施（強みである町広報紙の活用）、メディアへの露出やICT、SNSを活用した魅力の発信、ふるさと納税との連携などが有効となる。

図12 福智町における県外人口動向の概況【平成22年（2010）～平成26年（2014）】

(単位:人)

エリア	転入	転出	増減
九州・沖縄	166	206	- 40
南関東	155	184	- 29
関西	97	133	- 36
中国	84	85	- 1
東海	56	78	- 22
他県	46	60	- 14
国外	95	92	+ 3
合計	699	838	- 139

資料:「ふくおかデータウェブ」平成21年（2009）10月～平成26年（2014）9月までの確定値

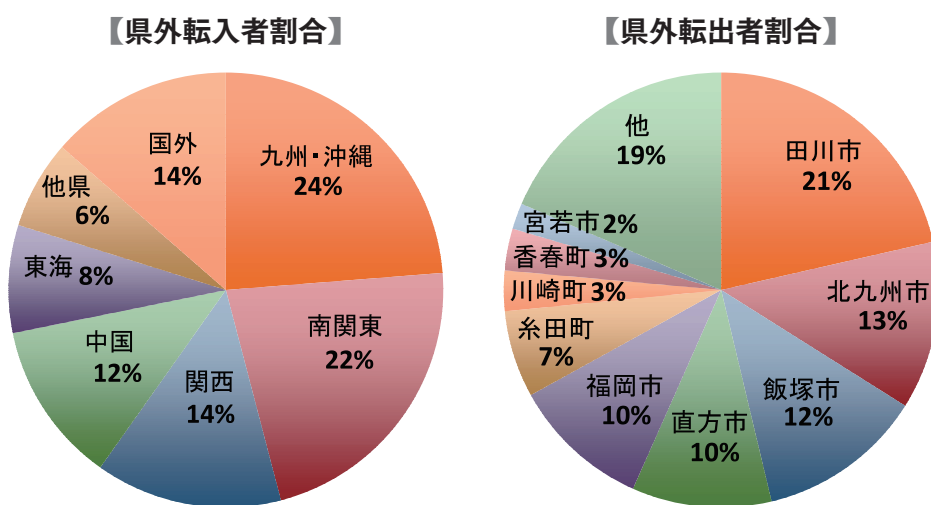
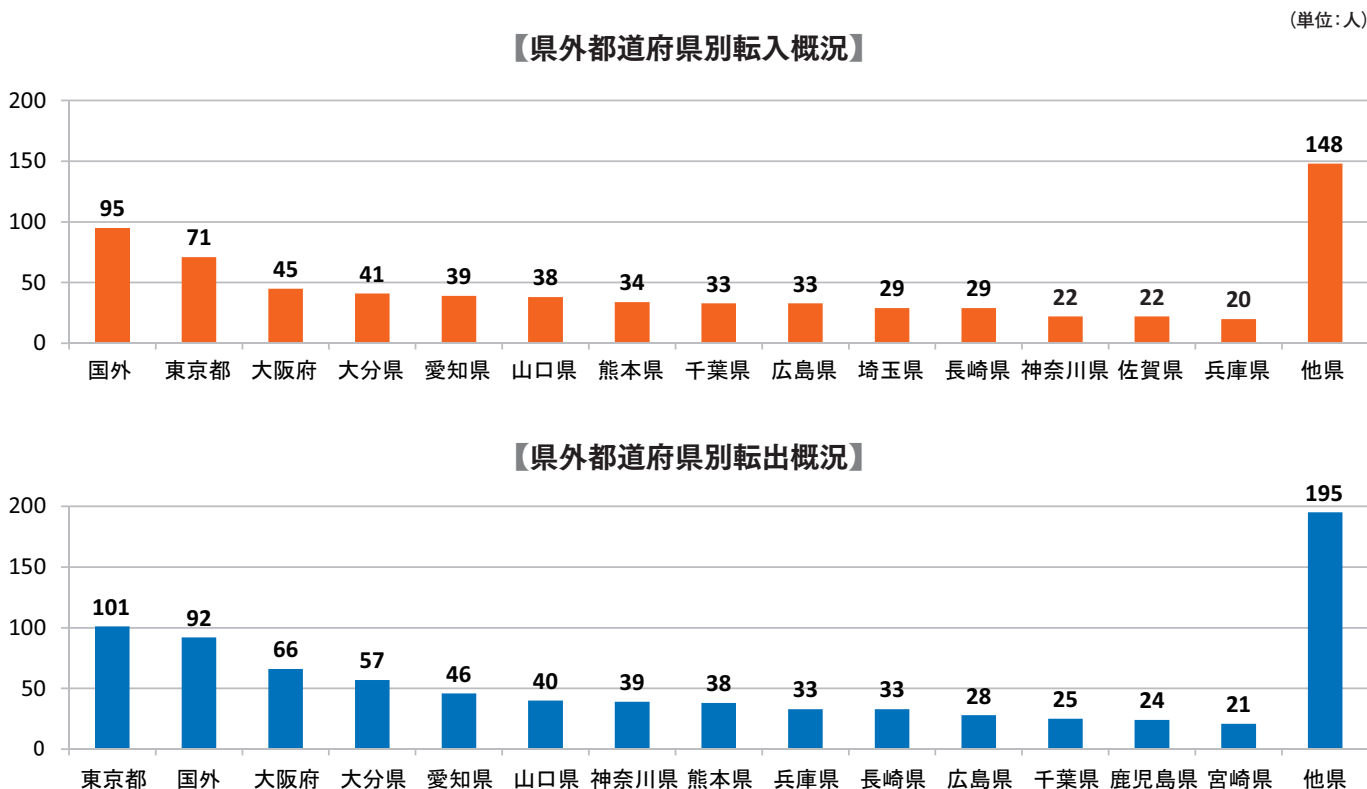


図13 福智町における福岡県外の都道府県別・転入転出概況【平成22年（2010）～平成26年（2014）】



資料:「ふくおかデータウェブ」平成21年（2009）10月～平成26年（2014）9月までの確定値

Ⅱ 人口に関する分析

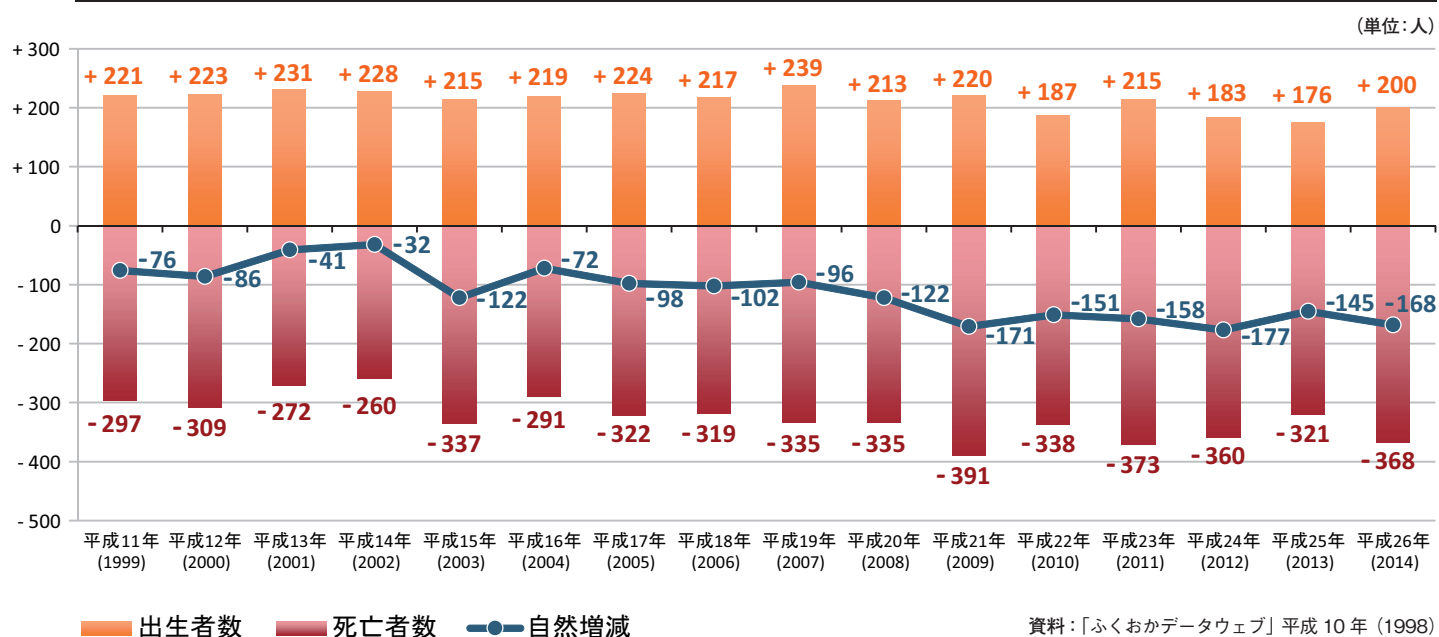
3 人口の自然増減の分析

① 出生者数・死亡者数（自然増減）の概要

本 町の出生者数は平成 25 年（2013）で 170 人、直近 10 年間の年間平均は約 215 人で推移している。また、直近の合計特殊出生率は 1.62 で全国

平均の 1.38 を上回っており、上昇傾向にある。一方、死亡者数は平成 25 年（2013）で 321 人、直近 10 年間の年間平均は約 340 人で推移している。

図14 福智町の出生者数・死亡者数（自然増減）の推移【平成 11 年（1999）～平成 26 年（2014）】

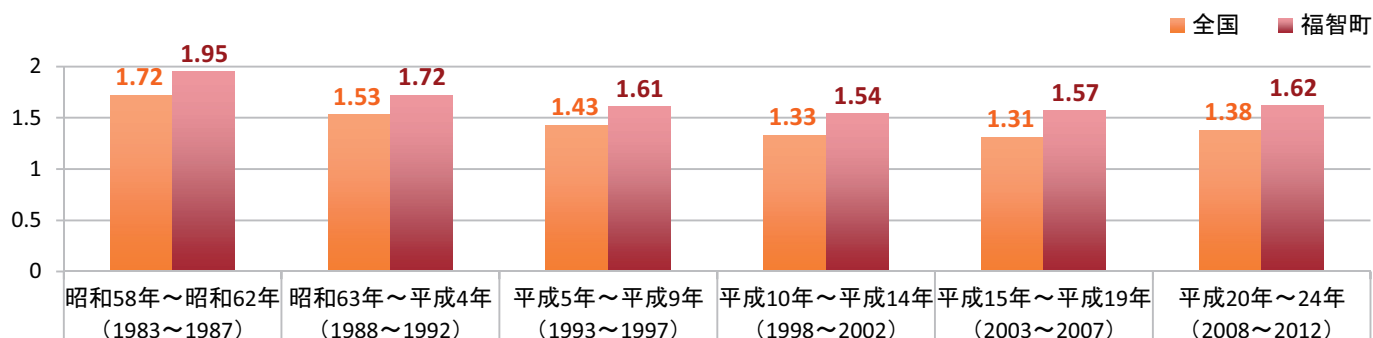


② 合計特殊出生率の推移

本 町の合計特殊出生率は、全国平均と比較して 0.2 ポイント程度高い状況にある。
▶直近 10 年は回復傾向となっており、今後、子育て

支援をはじめとする総合戦略の実施により、平成 31 年 (2019) に 1.8、平成 41 年 (2029) までに 2.0 への回復を目標とする。

図15 福智町の合計特殊出生率の推移／福智町・全国【昭和 58 年 (1983)～平成 24 年 (2012)】



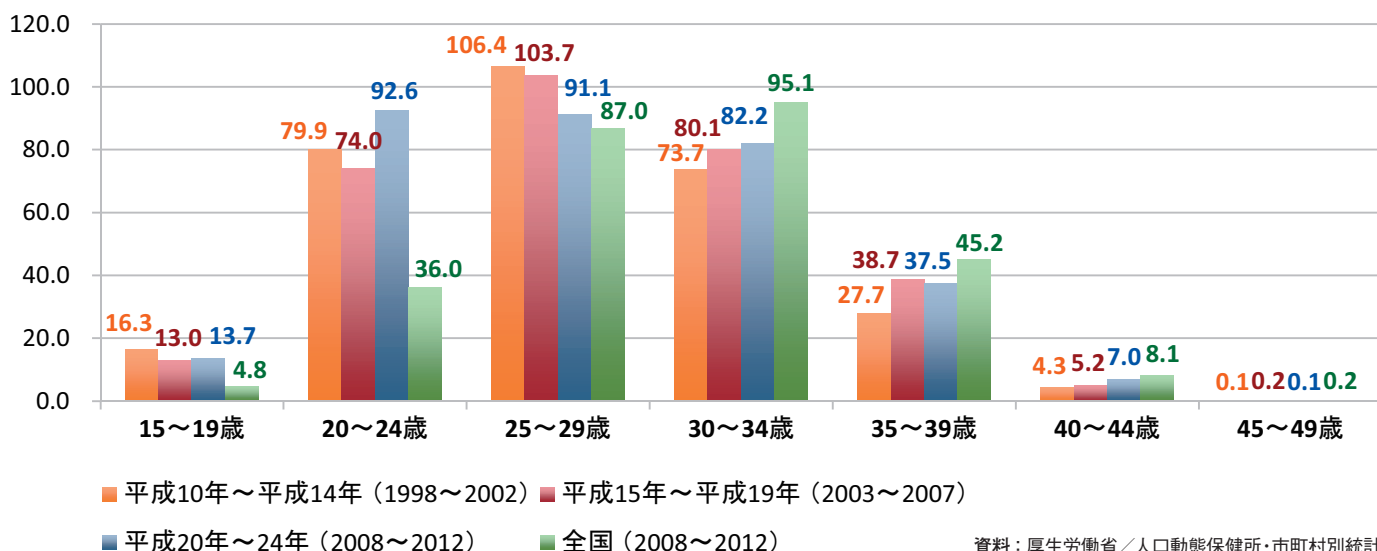
③ 出産した女性の年齢別出生率の推移

本

町における出産した女性の年齢は、全国と比較し、15歳～24歳の若年層の出産が多いのが特徴である。特に、直近のデータである「平成20年～24年の20歳～24歳の年齢層」の値が顕著である。一方、「平成20年～24年の25歳～29歳の年齢層」が大きく減少している。

▶ 本町が掲げる合計特殊出生率の長期的な目標値は「2.0」である。そのため、女性の夫婦率（結婚して離婚していない割合）が6割程度の本町の状況を前提にすると、一人の母親が3人以上の子を出産する必要がある。したがって、第3子を生み育てやすい手厚い支援や環境の整備が不可欠である。

図16 福智町における出産した女性の年齢別出生率の推移／福智町・全国【平成10年（1998）～平成24年（2012）】



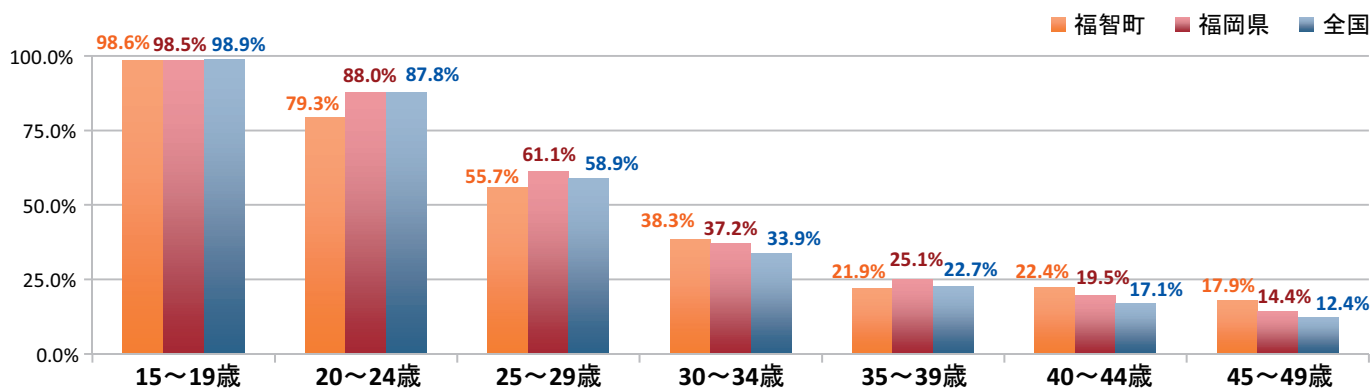
④ 女性の年代別婚姻状況

本

町における婚姻状況は ① 15歳～29歳の既婚率の高さ ② 離別率の高さ ③ 30代以降の夫婦率の低さが特徴となっている。出生率の改善に

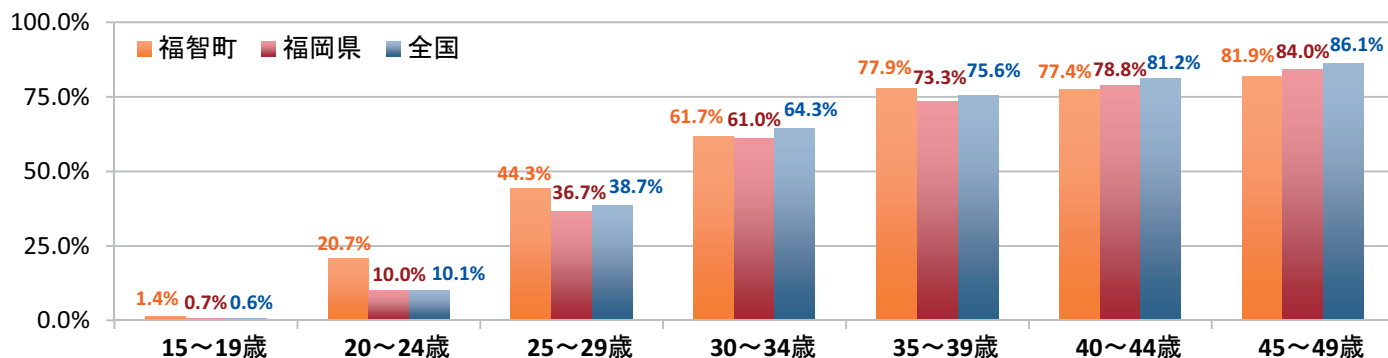
は、本町の地域課題でもある離婚率の改善が求められることから、子育て支援および就労支援等の拡充により、婚姻状態維持への寄与を図っていく。

図17 福智町における女性の年齢別未婚率／福智町・福岡県・全国【平成22年（2010）】



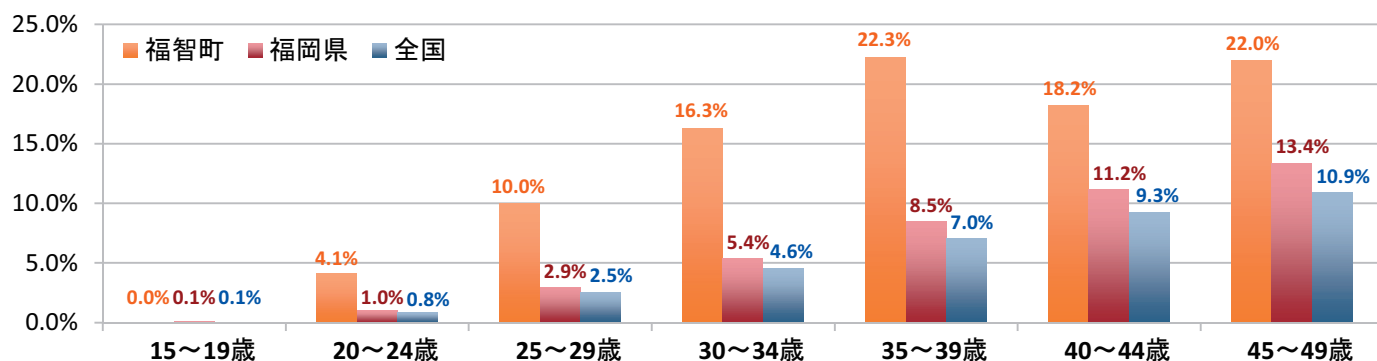
Ⅱ－人口に関する分析 ③ 人口の自然増減の分析

図18 福智町における女性の年齢別既婚率／福智町・福岡県・全国【平成22年(2010)】



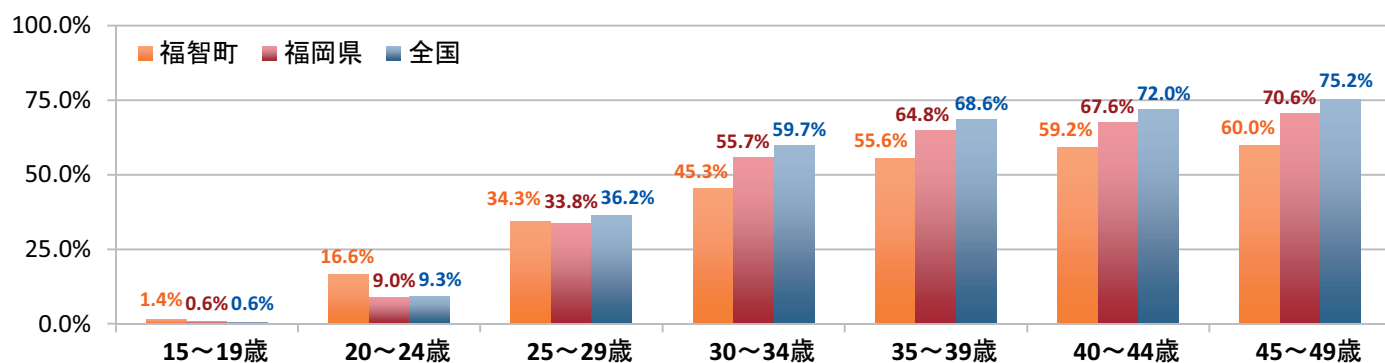
資料：国勢調査／平成22年(2010)

図19 福智町における女性の年齢別離別・死別率／福智町・福岡県・全国【平成22年(2010)】



資料：国勢調査／平成22年(2010)

図20 福智町における女性の年齢別夫婦率／福智町・福岡県・全国【平成22年(2010)】



資料：国勢調査／平成22年(2010)

Ⅱ-人口に関する分析

4 就業・雇用の分析

① 福智町在住者の従業地（自治体）の概況

本 町に在住する就業者のうち、4割は町内で従業し、6割は他市区町村で従業している。町内よりも町外で就業している人の方が1,200人ほど多い状況である。

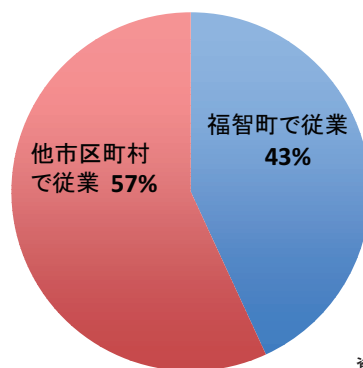
▶町外就業者の従業先は、田川市、直方市、飯塚市、田川郡、北九州市という順であり、また、宮若市や福岡市での就業者が多いことを鑑みると、ベッドタウンとして機能している状況がうかがえる。

図21 福智町に在住する就業者の従業地の概況【平成22年(2010)】

(単位:人)

分類	人数	割合
福智町に常住する就業者	8,849	100.0%
福智町で従業	3,815	43.1%
他市区町村で従業	5,034	56.9%

福智町で従業するひとの従業形態	3,815	100.0%
自宅外	2,859	74.9%
自宅	956	25.1%

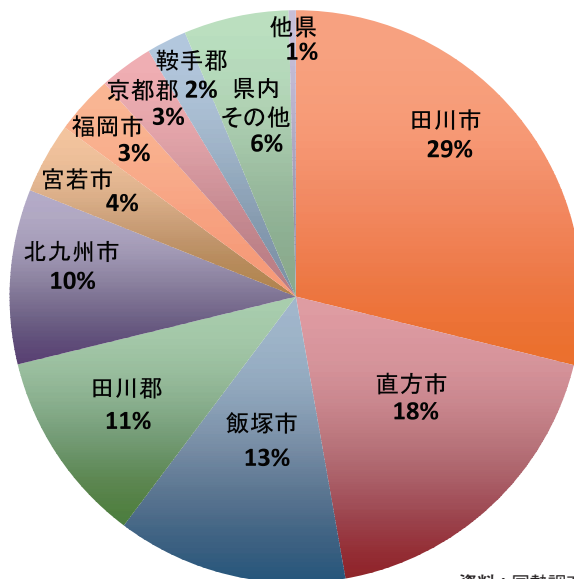


資料：国勢調査／平成22年(2010)

図22 福智町に在住する就業者の市郡別従業地の概況【平成22年(2010)】

(単位:人)

市郡	人数	割合
田川市	1,430	28.8%
直方市	911	18.4%
飯塚市	646	13.0%
田川郡	542	10.9%
北九州市	489	9.9%
宮若市	198	4.0%
福岡市	164	3.3%
京都郡	151	3.0%
鞍手郡	112	2.3%
県内その他	294	5.9%
他県	20	0.4%
合計	4,957	100.0%



資料：国勢調査／平成22年(2010)

② 福智町在住者の従業先の産業

本 町の就業者数は、平成7年(1995)の10,232人をピークに減少を続け、平成22年(2010)には9,000人を割っている。産業別では、第1次、

第2次産業就業者比率が減少し、第3次産業の比率が増加。平成22年(2010)では、68.2%と7割近い比率となっている。

図23 福智町の産業別就業者数の推移【平成2年(1990)～平成22年(2010)】

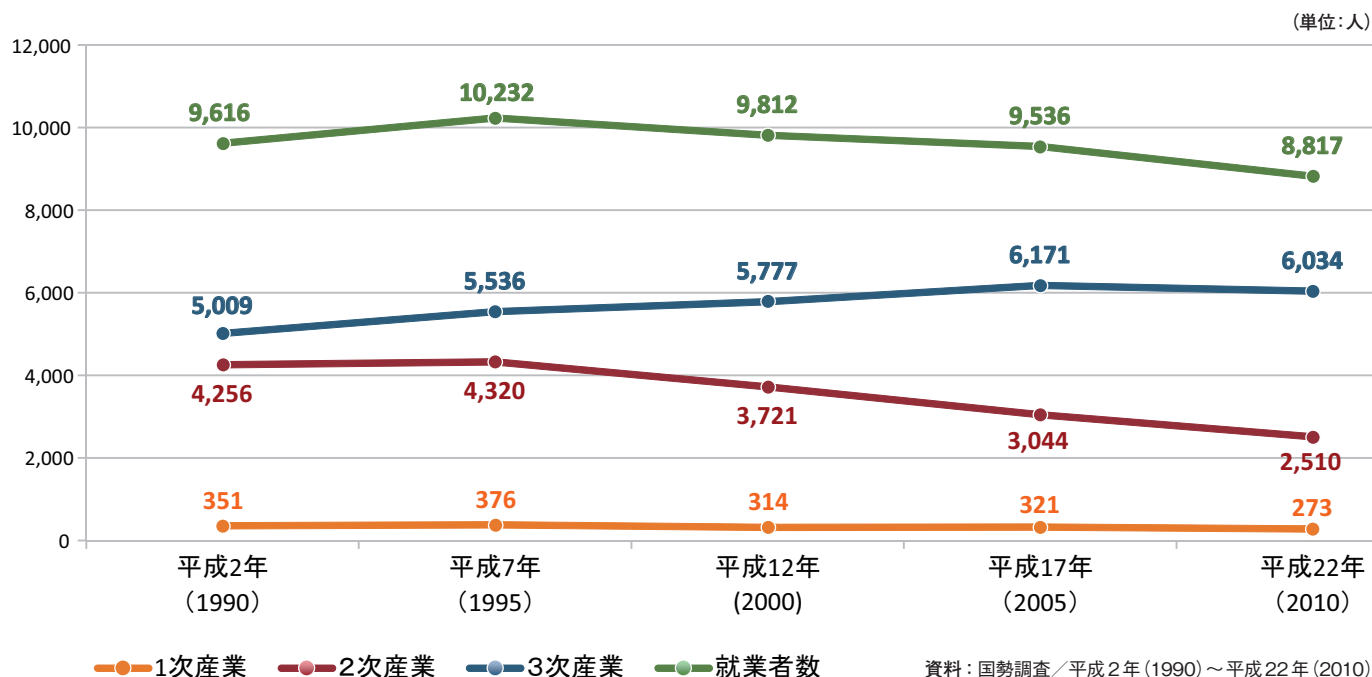
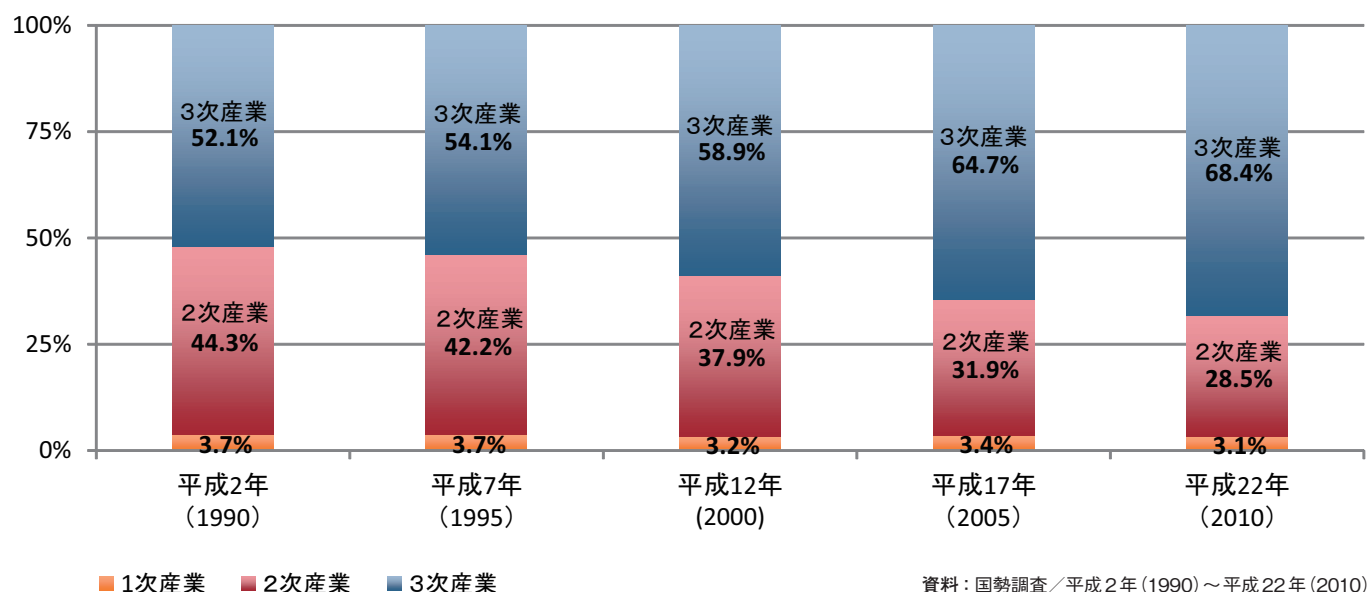


図24 福智町の産業別就業者比率の推移【平成2年(1990)～平成22年(2010)】



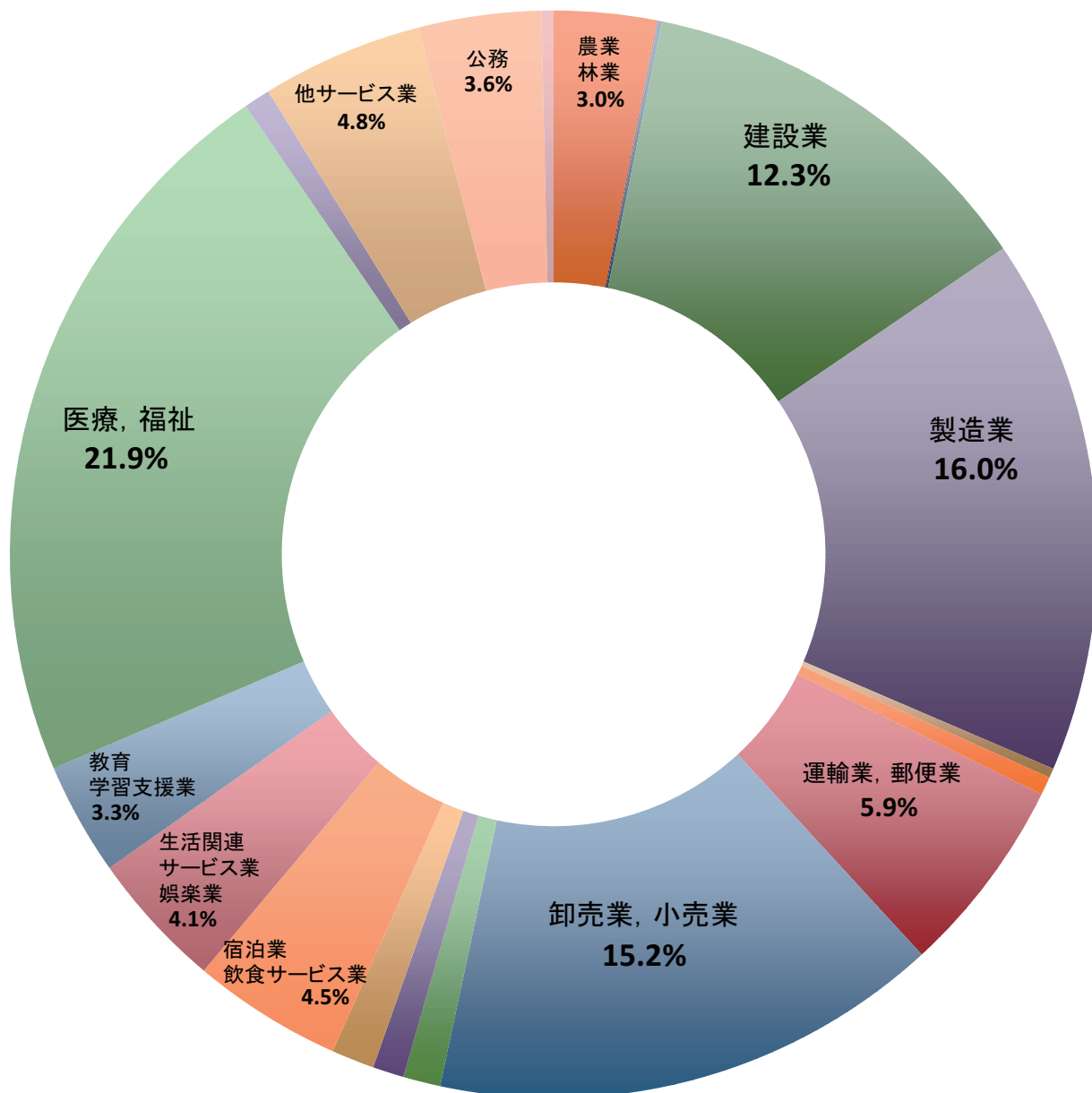
③ 就業者および産業の地域特性

本

町の平成22年(2010)の産業別就業者比率の詳細を見ると、医療福祉分野の就業者が

最も多く21.9%、次いで製造業の16.0%、卸売業・小売業の15.2%、建設業の12.3%となっている。

図25 福智町の産業別就業者比率の詳細【平成22年(2010)】



農業、林業 (3.0%)	漁業 (0.0%)	鉱業、採石業、砂利採取業 (0.1%)
建設業 (12.3%)	製造業 (16.0%)	電気・ガス・熱供給・水道業 (0.3%)
情報通信業 (0.5%)	運輸業、郵便業 (5.9%)	卸売業、小売業 (15.2%)
金融業、保険業 (1.1%)	不動産業、物品賃貸業 (0.9%)	学術研究、専門・技術サービス業 (1.3%)
宿泊業、飲食サービス業 (4.5%)	生活関連サービス業、娯楽業 (4.1%)	教育、学習支援業 (3.3%)
医療、福祉 (21.9%)	複合サービス事業 (0.8%)	他サービス業 (4.8%)
公務 (3.6%)	分類不能の産業 (0.4%)	

資料：国勢調査／平成22年(2010)

④ 福智町内で従業する就業者の常住地（自治体）の概況

本 町に従業する就業者のうち60%は町内に常住し、40%は他市区町村に常住しており、町内の常住者の方が1,250人ほど多い状況である。
▶町外常住者の常住地では、田川郡、田川市、飯塚市、直方市、北九州市という順であり、田川市郡だけで

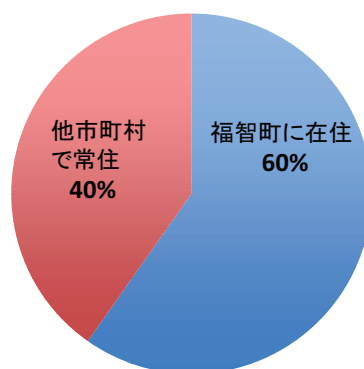
55%と過半数を占める状況となっている。

▶また、常住人口100人あたりの昼間人口の割合を示す昼夜間比率は86.7%となっており、「働くところ」というより「住むところ」といった状況となっている。

図26 福智町内で従業する就業者の常住地の概況【平成22年(2010)】

(単位:人)

分類	人数	割合
福智町で就業している就業者	6,384	100.0%
福智町に在住	3,815	59.8%
他市区町村で常住	2,569	40.2%

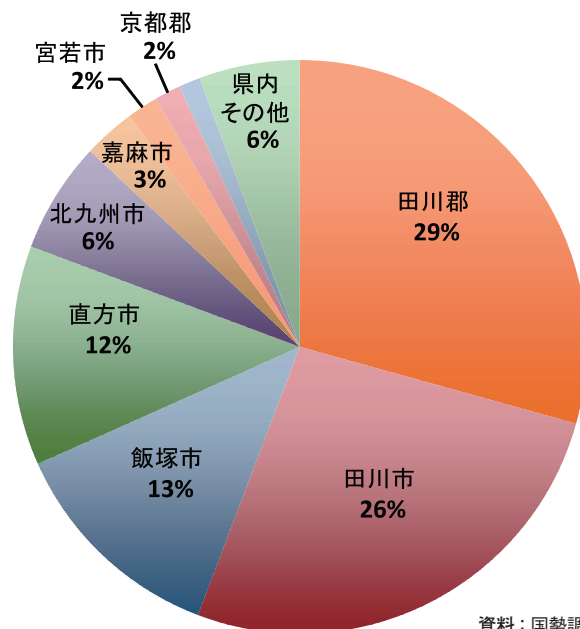


資料：国勢調査／平成22年(2010)

図27 福智町内で従業する就業者の市郡別常住地の概況【平成22年(2010)】

(単位:人)

市郡	人数	割合
田川郡	753	29.3%
田川市	680	26.5%
飯塚市	322	12.5%
直方市	318	12.4%
北九州市	161	6.3%
嘉麻市	75	2.9%
宮若市	45	1.8%
京都郡	38	1.5%
行橋市	31	1.2%
県内その他	146	5.7%
合計	2,569	100.0%



資料：国勢調査／平成22年(2010)

Ⅱ 人口に関する分析

5 産業の分析

① 福智町の産業と年間商品販売額

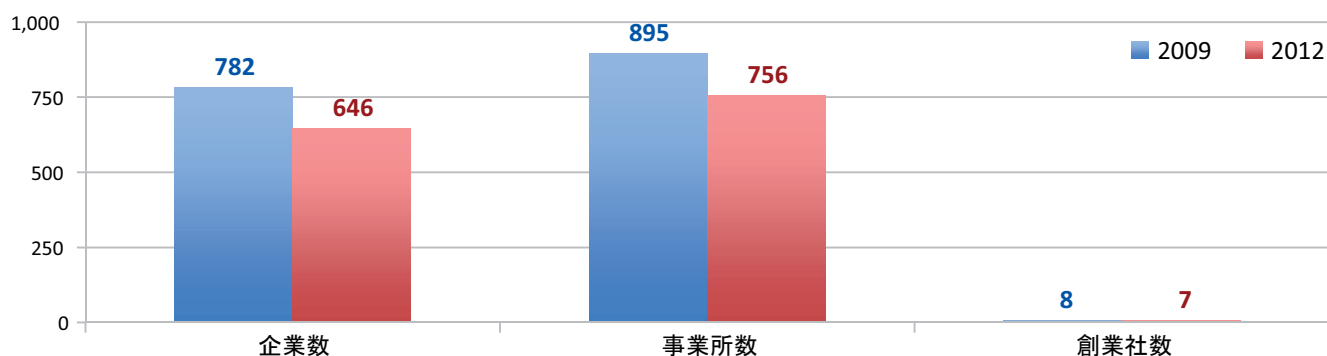
本

町の企業、事業所及び従業者数は、軒並み下降傾向にある。創業比率は全国平均の約半数となっている。また、年間販売額は、平成11年(1999)までは下降傾向だったが、それ以降は横ばいである。

▶ 今後は、企業誘致の環境整備及び創業支援を実施して、雇用の拡充を図る一方、商品販売額への対応策として、地域ブランド強化などの取り組みにより、地域経済の安定を図る必要がある。

図28 福智町の企業数・事業所数・創業社数の概況【平成21年(2009)・平成24年(2012)】

(単位:社・事業所)



資料:総務省・経済産業省/経済センサス

図29 福智町内の年間商品販売額【平成6年(1994)～平成19年(2007)】

(単位:百万円)

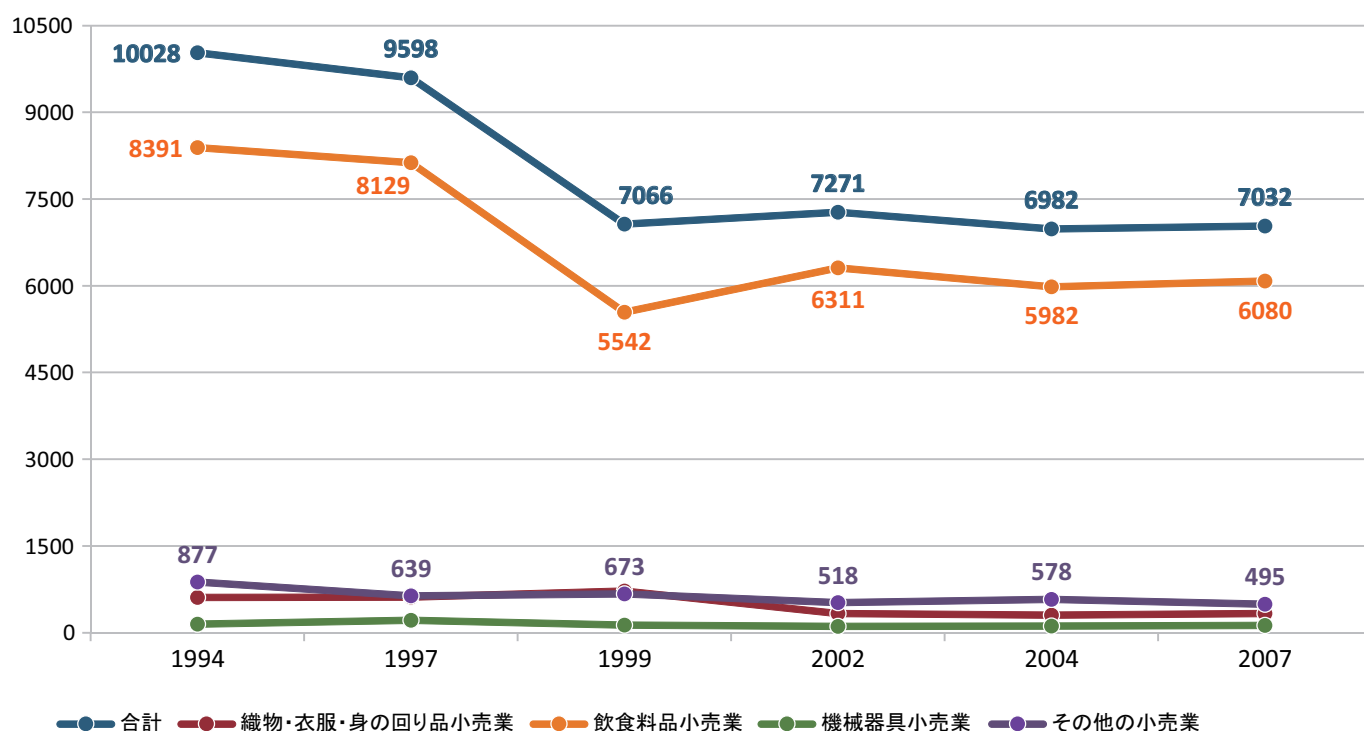


図30 福智町の企業数／大分類【平成24年(2012)】

(単位:社)

順位	企業数／大分類(上位10)	企業数	割合
1	卸売業, 小売業	172	27%
2	建設業	146	23%
3	生活関連サービス業, 娯楽業	69	11%
4	医療, 福祉	65	10%
5	サービス業(他に分類されないもの)	53	8%
6	製造業	49	8%
7	宿泊業, 飲食サービス業	47	7%
8	学術研究, 専門・技術サービス業	15	2%
9	運輸業, 郵便業	13	2%
10	不動産業, 物品賃貸業	6	1%
	福智町内企業数	646	100%

【福智町の企業数(大分類)上位10業種の割合】

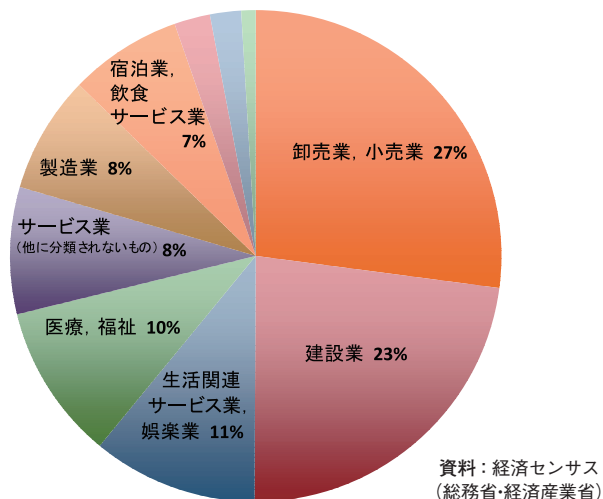


図31 福智町の企業数／中分類【平成24年(2012)】

(単位:社)

順位	企業数／中分類(上位10)	企業数	割合
1	総合工事業	99	15%
2	その他の小売業	64	10%
3	飲食料品小売業	58	9%
4	洗濯・理容・美容・浴場業	57	9%
5	社会保険・社会福祉・介護事業	43	7%
6	飲食店	42	7%
7	職別工事業(設備工事業を除く)	26	4%
8	宗教	25	4%
9	医療業	22	3%
10	設備工事業	21	3%
	福智町内企業数	646	100%

【福智町の企業数(中分類)上位10業種の割合】

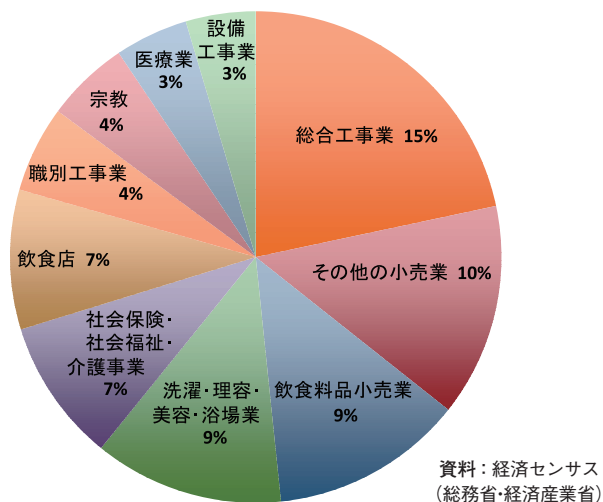


図32 福智町の事業所数／大分類【平成24年(2012)】

(単位:社)

順位	事業所数／大分類(上位10)	事業所数	割合
1	卸売業, 小売業	202	27%
2	建設業	147	19%
3	医療, 福祉	88	12%
4	生活関連サービス業, 娯楽業	73	10%
5	製造業	62	8%
6	宿泊業, 飲食サービス業	55	7%
7	サービス業(他に分類されないもの)	54	7%
8	運輸業, 郵便業	21	3%
9	学術研究, 専門・技術サービス業	16	2%
10	金融業, 保険業	12	2%
	福智町内事業所数	756	100%

【福智町の事業所数(大分類)上位10業種の割合】

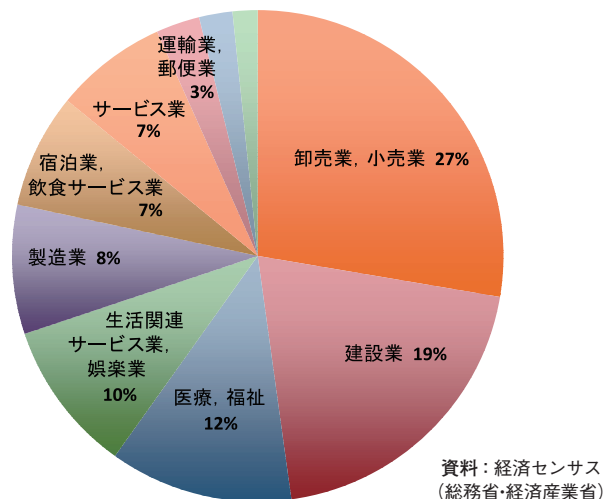


図33 福智町の事業所数／中分類【平成24年(2012)】

(単位:社)

順位	事業所数／中分類(上位10)	事業所数	割合
1	総合工事業	100	15%
2	その他の小売業	76	12%
3	飲食料品小売業	70	11%
4	社会保険・社会福祉・介護事業	66	10%
5	洗濯・理容・美容・浴場業	59	9%
6	飲食店	45	7%
7	職別工事業(設備工事業を除く)	26	4%
8	宗教	25	4%
9	医療業	22	3%
10	設備工事業	21	3%
	福智町内事業所数	646	100%

【福智町の事業所数(中分類)上位10業種の割合】

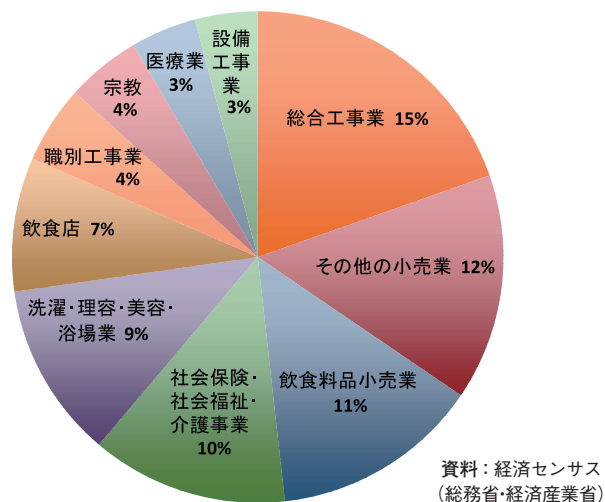


図34 福智町の従業者数（企業単位）大分類【平成24年（2012）】

(単位:人)

順位	従業者数(企業単位)／大分類(上位10)	従業者数	割合
1	医療, 福祉	1,810	36%
2	建設業	787	15%
3	製造業	739	15%
4	卸売業, 小売業	704	14%
5	運輸業, 郵便業	254	5%
6	宿泊業, 飲食サービス業	238	5%
7	生活関連サービス業, 娯楽業	212	4%
8	サービス業(他に分類されないもの)	187	4%
9	学術研究, 専門・技術サービス業	59	1%
10	金融業, 保険業	37	1%
	福智町内従業者数(企業単位)	5,092	100%

【従業者数(企業単位)大分類／上位10業種の割合】

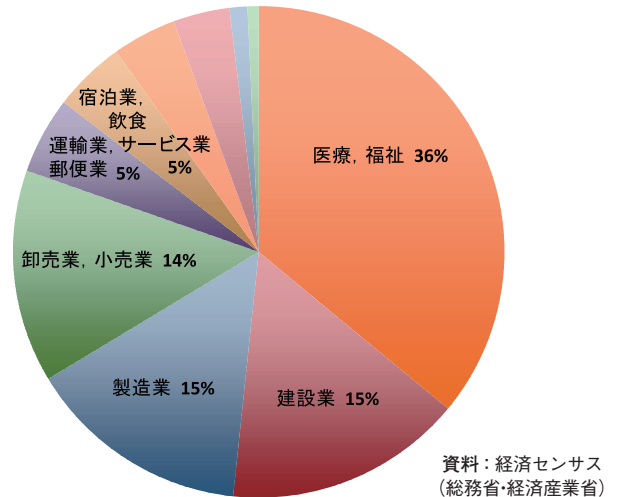


図35 福智町の従業者数（企業単位）中分類【平成24年（2012）】

(単位:人)

順位	従業者数(企業単位)／中分類(上位10)	従業者数	割合
1	社会保険・社会福祉・介護事業	1,222	24%
2	医療業	588	12%
3	総合工事業	563	11%
4	電気機械器具製造業	370	7%
5	その他の小売業	265	5%
6	飲食料品小売業	251	5%
7	飲食店	178	3%
8	道路貨物運送業	166	3%
9	洗濯・理容・美容・浴場業	154	3%
10	設備工事業	124	2%
	福智町内従業者数(企業単位)	5,092	100%

【従業者数(企業単位)中分類／上位10業種の割合】

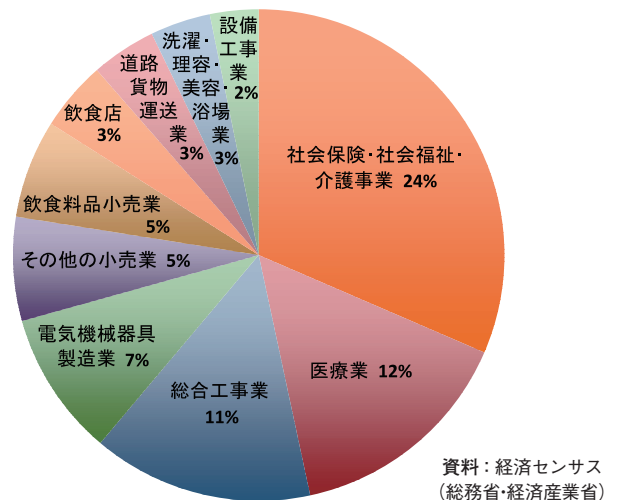


図36 福智町の従業者数（事業所単位）大分類【平成24年（2012）】

(単位:人)

順位	従業者数(事業所単位)／大分類(上位10)	従業者数	割合
1	医療, 福祉	1,836	30%
2	製造業	1,122	19%
3	卸売業, 小売業	985	16%
4	建設業	758	13%
5	運輸業, 郵便業	345	6%
6	宿泊業, 飲食サービス業	306	5%
7	生活関連サービス業, 娯楽業	235	4%
8	サービス業(他に分類されないもの)	188	3%
9	金融業, 保険業	85	1%
10	複合サービス事業	52	1%
福智町内従業者数(事業所単位)		6,052	100%

【従業者数(事業所単位)大分類／上位10業種の割合】

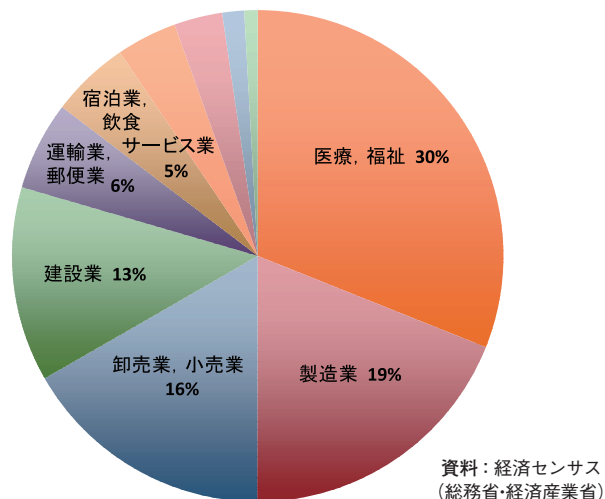
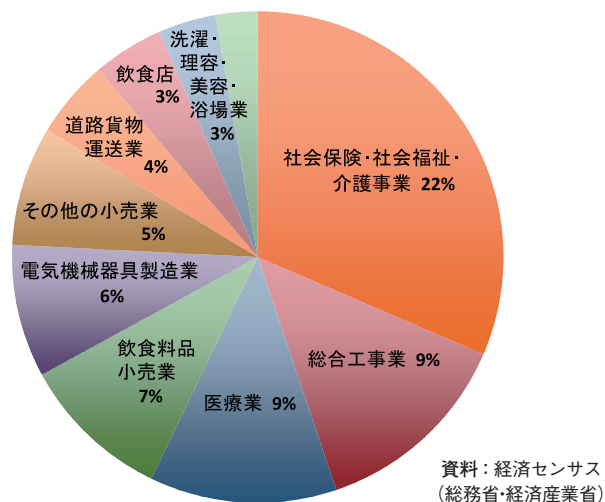


図37 福智町の従業者数（事業所単位）中分類【平成24年（2012）】

(単位:人)

順位	従業者数(事業所単位)／中分類(上位10)	従業者数	割合
1	社会保険・社会福祉・介護事業	1,320	22%
2	総合工事業	559	9%
3	医療業	516	9%
4	飲食料品小売業	417	7%
5	電気機械器具製造業	366	6%
6	その他の小売業	330	5%
7	道路貨物運送業	215	4%
8	飲食店	195	3%
9	洗濯・理容・美容・浴場業	159	3%
10	窯業・土石製品製造業	116	2%
福智町内従業者数(事業所単位)		6,052	100%

【従業者数(事業所単位)中分類／上位10業種の割合】



② 重点業種別の概況と分析

1 医療福祉事業

▶ 前述のように、本町常住者の就業先は、医療福祉事業の比率が最も高く、とりわけ介護関連事業の従事者が最多となっている。

▶ しかしながら、今後、平成30年代から町内の高齢者数が減少していくことにより、介護サービスの

供給過多が懸念され、そのことが本町にとって大きな課題の一つとなってくる。

▶ そのため、介護関連事業従事者の失業を防ぎ、この地域課題を地域の特性と捉え、時代のニーズに沿った先駆的なサービスの導入を図る必要がある。

図38 福智町の企業の付加価値額／大分類【平成24年(2012)】

(単位:百万円)

順位	付加価値額(企業単位)／大分類(上位10)	付加価値額	割合
1	医療, 福祉	6,372	46%
2	製造業	3,036	22%
3	建設業	1,620	12%
4	卸売業, 小売業	671	5%
5	運輸業, 郵便業	576	4%
6	生活関連サービス業, 娯楽業	394	3%
7	サービス業(他に分類されないもの)	348	3%
8	宿泊業, 飲食サービス業	237	2%
9	金融業, 保険業	227	2%
10	学術研究, 専門・技術サービス業	203	1%
福智町内(企業単位)付加価値額(単位:百万円)		13,781	100%

【付加価値額(企業単位)大分類／上位10業種の割合】

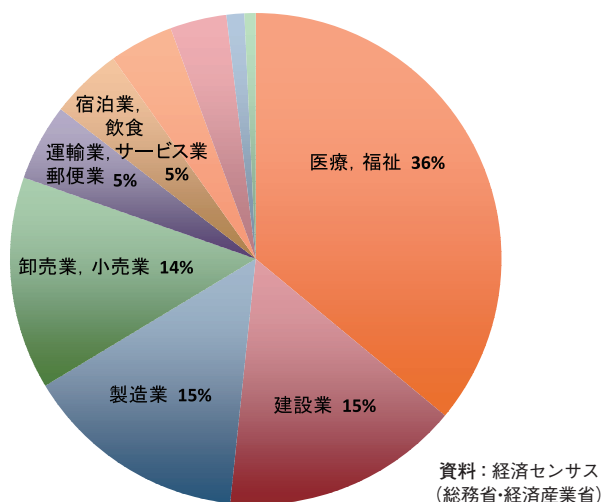
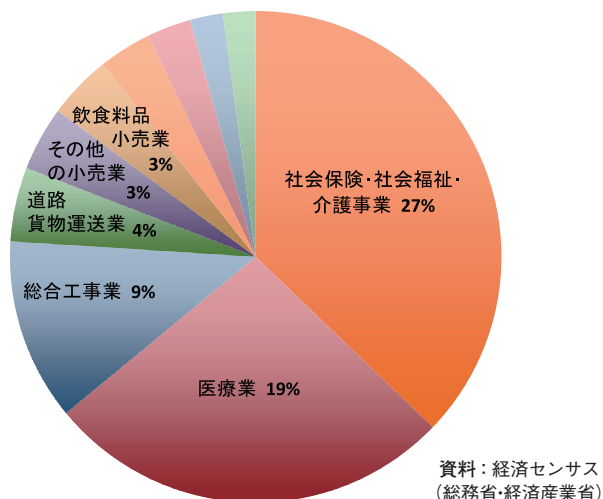


図39 福智町の企業の付加価値額／中分類【平成24年(2012)】

(単位:百万円)

順位	付加価値額(企業単位)／中分類(上位10)	付加価値額	割合
1	社会保険・社会福祉・介護事業	3,701	27%
2	医療業	2,671	19%
3	総合工事業	1,191	9%
4	道路貨物運送業	486	4%
5	その他の小売業	421	3%
6	飲食料品小売業	419	3%
7	電子部品・デバイス・電子回路製造業	343	2%
8	窯業・土石製品製造業	290	2%
9	職別工事業(設備工事業を除く)	216	2%
10	設備工事業	213	2%
福智町内(企業単位)付加価値額(単位:百万円)		13,781	100%

【付加価値額(企業単位)中分類／上位10業種の割合】



2 製造業

▶本町における製造業は、事業所数では5番目の分類だが、事業所単位での従業者数は、医療・福祉に次ぐ2番目に多い分類となっている。売上高で見ると2番目の医療・福祉を大きく引き離し、製造業がトップの業績となっている。また、付加価値額、取引流入額ともに高い分類に位置している。

▶したがって、本町における製造業の状況は、企業数は少ないものの、売上高が最も高く、従業者数、付加価値額、取引流入額ともに高い水準となっており、このポテンシャルの高い製造業分野を伸ばし、雇用・起業を促進することで、町内産業の大きな活性化が見込まれる。

図40 福智町の企業の売上高／大分類【平成24年(2012)】

(単位:百万円)

順位	売上高(企業単位)大分類(上位10)	売上高	割合
1	製造業	14,084	32%
2	医療, 福祉	9,403	21%
3	卸売業, 小売業	8,731	20%
4	建設業	6,877	16%
5	運輸業, 郵便業	1,789	4%
6	生活関連サービス業, 娯楽業	926	2%
7	サービス業(他に分類されないもの)	680	2%
8	宿泊業, 飲食サービス業	573	1%
9	金融業, 保険業	444	1%
10	学術研究, 専門・技術サービス業	357	1%
福智町内売上高(企業単位)単位:百万円		44,071	100%

【福智町の企業の売上高(大分類)上位10業種の割合】

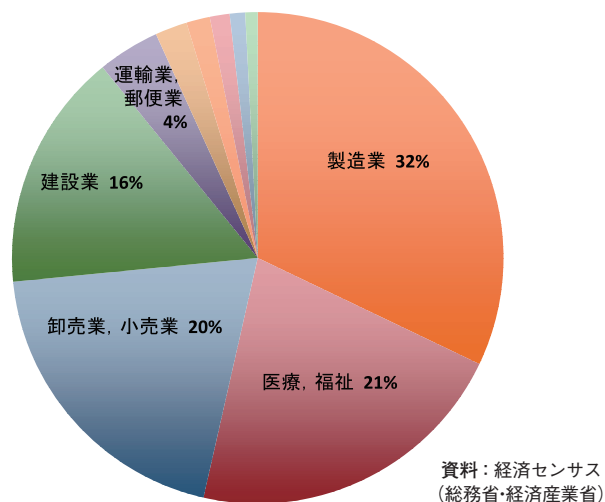
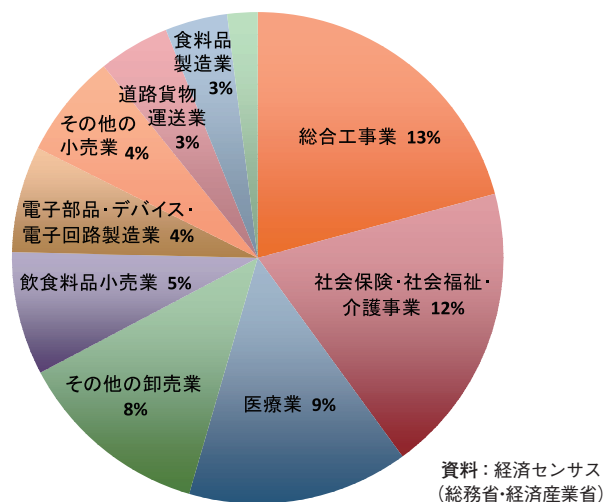


図41 福智町の企業の売上高／中分類【平成24年(2012)】

(単位:百万円)

順位	売上高(企業単位)中分類(上位10)	売上高	割合
1	総合工事業	5,804	13%
2	社会保険・社会福祉・介護事業	5,349	12%
3	医療業	4,054	9%
4	その他の卸売業	3,562	8%
5	飲食料品小売業	2,262	5%
6	電子部品・デバイス・電子回路製造業	1,952	4%
7	その他の小売業	1,913	4%
8	道路貨物運送業	1,306	3%
9	食料品製造業	1,144	3%
10	職別工事業(設備工事業を除く)	556	1%
福智町内売上高(企業単位)単位:百万円		44,071	100%

【福智町の企業の売上高(中分類)上位10業種の割合】



3 観光

▶減少傾向にある本町への観光入込客数は、その大半に「ふるさと交流館 日王の湯」と「ほうじょう温泉 ふじ湯の里」の利用者数が含まれている。したがって、両温泉施設の利用者の減少が、観光入込客数に大きく影響を及ぼしている。

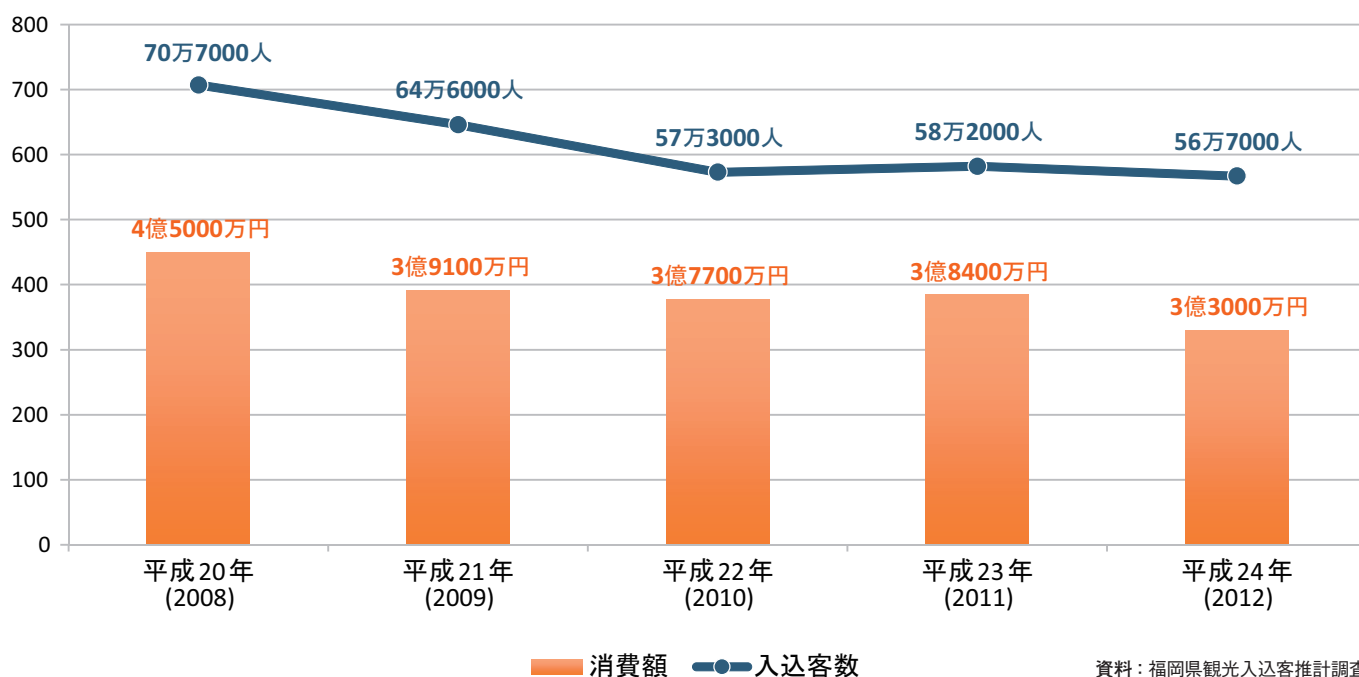
▶一方、近年の登山ブームにより、福智山や鷹取山への登山客は増加していると推計され、シンボリックな観光PRイベントの成功により、交流人口は増加していると推測される。

▶本町の観光入込客数の増加には、観光の拠点とも言える両温泉施設の活性化が必要となる。今後は、さらに両温泉施設の魅力をPRし、町内に点在する観光資源と結びつけた振興を図るなど、創意工夫が求められる。

▶また本町は、小倉藩主の御用窯で藩窯であった国指定伝統工芸品「上野焼」の産地であり、400年以上の伝統を受け継ぐ窯元が点在する陶芸の里となっている。しかしながら、町の地域ブランド化に大きく寄与してきた「上野焼」も、近年のライフスタイルの変化や後継者不足により、廃窯する窯元も出てきている。そのため、売上高・入込客数ともに減少傾向にあり、将来的な産地存続という点においても厳しい状況に直面している。

▶福智町が誇る「上野焼」は、本町における文化・歴史を代表する中核的存在である。そのため、今後さらなるブランド力の向上と産地活性化を図り、産業や観光、体験や教育など、あらゆる分野において、その多彩な魅力と幅広い効果を生み出していく。

図42 福智町の観光入込客数とその消費額の推計【平成20年(2008)～平成24年(2012)】



4 農業

▶本町の農業は縮小傾向にあり、平成17年(2005)から平成22年(2010)にかけて、およそ1億円の販売額減少となっている。

▶農業の衰退は、本町にとって大きな損失であるた

め、新規就農希望者への支援や農業法人の誘致などを効率的・効果的に実施する必要がある。

▶また、地域ブランド商品のマーケティング戦略とも連携し、農業分野の回復と活性化を目指す。

図43 福智町の農業部門別販売額①【平成17年(2005)】

(単位:万円)

順位	農業販売金額部門(上位10)	販売額	割合
1	稲作	19,755	33%
2	農作業請負収入	5,955	10%
3	果樹類	5,940	10%
4	施設野菜	5,080	9%
5	麦類作	4,650	8%
6	養鶏	4,250	7%
7	花き・花木	3,550	6%
8	その他の作物	3,180	5%
9	酪農	2,500	4%
10	肉用牛	2,400	4%
福智町の農業販売金額(単位:万円)		59,125	100%

【平成17年の農業部門別販売額上位10部門の割合】

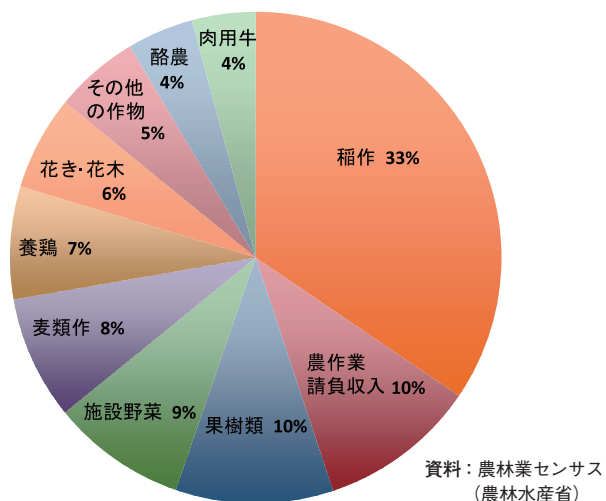


図44 福智町の農業部門別販売額②【平成22年(2010)】

(単位:万円)

順位	農業販売金額部門(上位10)	販売額	割合
1	稲作	19,135	40%
2	果樹類	5,795	12%
3	花き・花木	5,535	11%
4	農作業請負収入	4,735	10%
5	麦類作	4,630	10%
6	施設野菜	2,875	6%
7	肉用牛	2,170	4%
8	養鶏	1,750	4%
9	雑穀・いも類・豆類	690	1%
10	露地野菜	535	1%
福智町の農業販売金額(単位:万円)		48,250	100%

【平成22年の農業部門別販売額上位10部門の割合】

